

## 【 寄 稿 】

第 6 回 JCHO 地域医療総合医学会 会長 木村 健二郎 先生よりご寄稿いただきました。

## JCHO 職員の皆様へ～感謝～

## はじめに

平成 26 年より 7 年勤務した東京高輪病院を 3 月末で退職することになりました。この間、尾身茂理事長をはじめ理事の皆様、本部職員の皆様には大変にお世話になりました。また、関東地区理事と北海道東北地区理事を兼務させていただき、自分の病院のみならず広く廻りを見渡すことができ大変に良い経験をさせていただきました。篤くお礼を申し上げます。

この間、JCHO 東京高輪病院の初代院長として、病院を地域に根付いた地域から必要とされる自立した病院とすべく微力を尽くしてきたつもりです。多くの病院職員に支えていただきここまで来ることができたのは、本当にありがたいことです。しかし、目指す病院の姿にはほど遠い状態で次の院長にバトンタッチすることになったのは心苦しい限りです。これも私の力不足と不徳のためと思っています。東京高輪病院の職員に対しても心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



第 6 回 JCHO 地域医療総合医学会  
会長 木村 健二郎  
(JCHO 東京高輪病院 院長)

## 学会の準備状況と中止の経緯

新型コロナウイルス感染症蔓延で中止になってしまった第 6 回 JCHO 地域医療総合医学会について述べさせていただきます。当初は令和 3 年 10 月 8 日・9 日で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて令和 4 年 3 月 4 日・5 日に延期させていただき、開催準備を進めてきました。学会のテーマは「不撓不屈」。新型コロナウイルス感染症などの疫病や台風・地震などの災害にあっても、自助共助の精神で力強く立ち上がり地域医療を継続して行く JCHO 病院群をイメージしていました。特別講演は元プロテニスプレイヤーの杉山愛さんに決めさせていただきました。開催準備委員会の委員の先生方やプログラム委員会の委員の皆様にご助けをいただきながら準備を進めていました。また、会員の皆様のご協力によりランチョンセミナー、広告や展示などへの協賛企業も順調に集まっていました。就職ガイダンスのためのブースも多くの病院のご協力で充実したものになっていました。一般演題は 314 題集まり、また、セミナーなどの特別企画・指定演題も 54 題集まりました。それぞれ工夫をこらしたものが多く、会員の皆様が参加して良かった、楽しめたという学会になることを期待していました。ところが、残念ながら、オミクロン株の蔓延で学会を中止せざるを得なくなりました。多くの演題や企画は次の学会へ移行することになりましたので、第 7 回の島田信也会長による熊本での学会は盛会になると確信しています。第 6 回学会は中止になりましたが、これが第 7 回の学会の盛会に繋がってくれば、正に「不撓不屈」のテーマが活かされたこととなります。

今回の中止に理解を示して快く受け入れていただいた特別講演の杉山愛さん、また、会場として全面的に協力して頂いていたプリンスホテル様には心から感謝申し上げます。また、学会の準備を滞りなく進めていただいていた中村仁事務局長を始め、事務局の皆様には本当にお世話になり、感謝の気持ち以外ありません。ありがとうございました。

## 会長講演について

実は学会では会長講演が通例になっていますが、私は会長講演をしたくありませんでした。第 5 回会長で素晴らしい学会を開催していただいた内野直樹先生のように病院経営に秀でた才能があるわけでもなく、JCHO の会員の皆様に聞いて頂けるような話をする自信もなかったからです。しかし、当時の西辻浩理事や内野直樹先生からは会長講演は絶対にやるように言われ困ったものだと思っていました。

そこで苦し紛れに考えた末、皆様に私の生き方やものの考え方に決定的な影響を与えた「大東流合気柔術」の佐川幸義先生について話をしようと思いました。武術への関心の有無に関わらず、若い JCHO 職員の皆さんが今後仕事を続けていく上で、あるいは生きて行く上で少しでも参考になれば、という気持ちでした。そこで、準備した講演内容を紹介したいと思います。

## ＜会長講演要旨＞ ～大東流合気柔術 佐川幸義先生から学んだこと～

私は大学に入ってから合気道を始めました。大学時代は、幸か不幸か、大学紛争（後に「安田講堂事件」に繋がる）のため授業も試験も無かったので、道場に熱心に通うことが出来ました。昭和58年にデンマークに留学しました。家族4人でコペンハーゲンに滞在しました。それなりに、研究も生活も充実して楽しい2年間でした。合気道は四段になっていたの、イギリスやデンマークの道場で合気道を教えたりして、良い経験をすることが出来ました。たどたどしい英語しかしゃべれない私に対して「センセイ」「センセイ」と敬意を表してくれて、私がしゃべると真剣に聞いてくれました。

このように合気道をやっていたお陰で良い思いを随分しましたが、同時に物足りなさを感じていました。それは、一言で言えば、合気道は本当の武術ではない、ということです。お互いに約束事で投げたり投げられたりします。合気道では倒れまいと抵抗することがないので、先生としての面目は保てますが、体格の大きい力の強い彼らが本当に抵抗したら何も出来ないだろうな、と思いながらやっていました。そこで、本物の武術を学びたい、本物の武術の先生に習いたいという思いが強くなり、兄がこの頃すでに入門していた大東流合気柔術に対する関心が強くなってきました。

よく知られている「合気道」は明治時代に全国を行脚して大東流合気柔術を教えていた武田惣角の弟子の1人であった植芝盛平という方が創ったものです。合気道は元になった大東流合気柔術とは全く異なります。しかし、合気道は全世界に広がり、合気道人口は大変に多い。一方、元になった大東流合気柔術はあまり知られていません。これはものの考え方の違いによるものです。合気道は一般の人や外国人にも受け入れられやすい精神性と健康法の側面を強調し全世界に広がっていきました。技の体系は全てオープンです。しかし、一方、日本武術としての要素は希薄になっていったと言えます。

武術とは戦う技術ですから、約束事で飛んだり跳ねたりしても仕方ない。また、実は非常に秘密性の高いものなのです。実際の戦いになったときに技を知っているものは技を知らないものに必ず勝つ、逆に言えば、技を知らないものは技を知っているものには絶対に勝てない。師範もどんなに高い地位にある弟子にも最終的に教えない奥義（秘密の教え）があります。弟子が裏切って先生をやっつけようと襲ってきても、一瞬でその弟子をやっつけてしまう。現代の教育を受けてきた人には時代錯誤のように思えるかも知れませんが、これが武術の世界です。生死をかけた戦いの世界です。

当時、80歳を越えた佐川幸義先生は武田惣角先生に10歳で入門し、17歳で合気の原理を会得したそうです。それから60年以上、毎日体を鍛えひたすら修業に打ち込み、研究と工夫を重ね技術を発展させてきました。合気は「一瞬にして相手を無力化する技術」と言われますが、その技術を発展させて来たのです。その間、宣伝することもなく弟子もあまりとらず自らの修行をつづけてきました。すなわち武田惣角の大東流合気柔術は佐川幸義先生に引き継がれ発展していった、ということになります。

大東流合気柔術とは全く異なる合気道をデンマークやイギリスで教えながら、これではだめだ、と本気で思うようになってきました。そこで、2年間のデンマーク留学を終えて帰国後、兄に依頼して佐川先生に入門させてもらいました。

入門させていただき大変に驚きました。道場では2人一組になって技を掛け合いますが、全く先輩には歯が立たません。大東流では技が効かなければ倒れなくても良いので、合気道四段の私の技は全く効いていないということになります。逆に先輩にはバシバシと投げられます。また、関節技の痛いこと、合気道の比ではありませんでした。白帯の先輩、それも女性にも歯が立たず、これは大変だと思いました。デンマークで「センセイ」「センセイ」と言われていい気になっていた自分が恥ずかしくなりました。

しかし、暫くすると、こちらの身体も強くなり、技を掛けることは出来なくても、抵抗しようとするれば抵抗できるようになってきました。最初痛かった関節技も効かなくなりました。先生は椅子に腰掛けて門人の稽古を眺めていますが、そのような時に、出てこられ技を掛けられると、バシと投げつけられたり、体の自由がきかなくなってしまう。先生の力も感じないのですが、畳に投げられるとバシと非常に強くたたきつけれる。受け身をとれずに、後頭部を打ってしまうこともある程でした。10年以上修業して強くなっている先輩も全く同じように一瞬にして叩きつけられています。いままでの稽古でお互いに身体が強くなっており、本当に技を掛けるのは不可能に思えるような場合でも、一瞬に畳に投げつけられてしまいます。

合気とは「一瞬にして相手の力を無力化する技術だ」と何度もおっしゃるのですが、どうしたら良いかは教えてくれませんが、柔術は教えてもらえますが、合気は先生の技をみて取るしかないのです。現代の教育では考えられないことです。この時点で道場のだれも先生の合気は出来ていないことは私にも分かりました。先生は全く門人とは異なることが体で分かったのです。すなわち、強い先輩にはやられるとしても力を感じるの、こちらが強くなれば技は効かなくなってしまうのです。力と力ですから同じ土俵で戦うことが出来るのです。しかし、先生の場合は全く力を感じないので、同じ土俵にすら上がれないのです。

平成2年1月18日に朝日新聞の夕刊に佐川先生のことが掲載されました（次頁写真）。「一瞬の技 宙舞う猛者 87歳佐川さんの奥義」というタイトルでした。記事には「玄関先で会ったときの佐川さんは、やや腰をかがめて歩く、普通のお年寄りだった。・・・だが、稽古着を着けた師範は雰囲気まで一変していた。」と書かれ、あとは門人に技を掛ける様子、記者自身が技を掛けられたときの不思議な体験などが書かれています。記事のサブタイトルに「武道の達人も学者も「なぜだ」とあります。さらに、「世の中教えすぎ 自分で工夫を」という先生のお言葉が先生の柔和なお顔と共に掲載されています。



平成2年1月18日朝日新聞の記事より（左上の写真：左側の3人の内、中央が木村院長）

入ってしまいました。先生はちょっとお腹を突き出す動作をされました。手は全く使われていませんでした。次の瞬間、頭から畳に叩きつけられていました。まさに、一瞬です。自分でも何が起こったか全く分かりませんでした。後から、見ていた門人に聞くと、私は左腕を伸ばしたまま、身体が硬直したようにのけぞり、そのまま畳に投げつけられたとのことでした。とっさのことで、先生が反射的に技を掛けられたのです。先生のおっしゃる「体（たい）の合気」の神髄ではないかと思えます。「体の合気」とは身体のどこでも合気がかけられる、そういった技術のことです。これは、先生が80歳を過ぎてから会得したものです。この強烈な印象を今でも鮮明に覚えています。その「合気」の原理をとらうとして、皆必死でしたが、私も含めて誰も技をとることが出来ませんでした。

先生は平成10年3月に95歳で亡くなりました。私は大学の仕事が忙しくなり、稽古は出来なくなっていました。先生は亡くなる前日に門人を凄まじい勢いで投げたとのことでした。

繰り返しますが、これ程凄い技の使える達人の先生が「私はまだまだ未熟だ。これで良いと言うことはない。満足したら進歩はそこで止まってしまふ。私は、いくつになっても進歩し続ける」と仰ったことは私の生涯の戒めになっています。超人的な神技も決して一朝一夕に出来るようになったものではありません。何十年の間、名声を求めることなく、毎日鍛錬を怠らず、研究を重ねた結果です。決して慢心しない、こと。これも忘れてはなりません。医師は若いときから先生先生と言われ、ややもすると自分は大したものだと錯覚し、他人に対して高圧的になったり威張ったりすることがあります。

上には上がある、自分は未熟である、と実感させてくれた佐川幸義先生に出会えた自分自身の幸運に感謝しています。

### 終わりに

JCHOの職員の皆様のご健勝とご活躍、そしてJCHO病院のご発展を心から願って、皆様への感謝の言葉とさせていただきます。7年間ありがとうございました。

## 予定していた企画

### 【当初予定】

会 期：2021年10月8日（金）・9日（土）  
会 場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

### 【会期変更】※中止（2022年1月21日決定）

会 期：2022年3月4日（金）・5日（土）  
会 場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

### 【プログラム企画】

#### ■特別講演「『夢を叶える生き方』ルーティーン」

座長 木村健二郎（東京高輪病院 院長）  
演者 杉山愛（スポーツコメンテーター・元プロテニスプレーヤー）

#### ■会長講演「不撓不屈」

座長 島田信也（熊本総合病院 院長）  
演者 木村健二郎（東京高輪病院 院長）

#### ■理事長講演「感染症のこれまで、そしてこれから」

座長 楠進（理事）  
演者 尾身茂（理事長）

#### ■教育講演1「頑張った職員に桜咲く！」

座長 住田安弘（四日市羽津医療センター 院長）  
演者 内野直樹（理事長特任補佐、桜ヶ丘病院 院長）

#### ■教育講演2「新型コロナウイルス肺炎

～地域の病院における診療の実際～  
座長 木村健二郎（東京高輪病院 院長）  
演者 大曲貴夫（国立国際医療研究センター 理事長特任補佐）

## ■会長企画シンポジウム

### 「新型コロナウイルス感染症の現場から～不撓不屈」

座長 木村健二郎（東京高輪病院 院長）、  
関根信夫（東京新宿メディカルセンター 院長）  
演者 石井耕司（東京蒲田医療センター 院長）、  
守山祐樹（東京高輪病院 感染症内科）、  
東館義仁（札幌北辰病院 副院長）、松本高宏（福岡ゆたか中央病院 院長）、  
大曲貴夫（国立国際医療研究センター 理事長特任補佐）

## ■継続テーマシンポジウム 1

### 「特定行為研修を修了した看護師の効果的な活用と展望 ～チーム医療とタスクシェアの実現～」

座長 石川直子（理事）、佐藤美樹（本部 医療部 サービス推進課 課長）  
演者 神野正博（社会医療法人財団董仙会・恵寿総合病院 理事長）、  
林英司（中京病院 副院長）、菅井亜由美（星ヶ丘医療センター 看護部長）、  
中島由美子（社会医療法人恒貴会 訪問看護ステーション愛美園 所長）

## ■継続テーマシンポジウム 2 「JCHO における ICT の活用」

座長 楠進（理事）  
演者 西川英敏（本部 総務部 IT 担当部 副部長）、  
松本純一（聖マリアンナ医科大学 救急医学 救急放射線部門）、  
古家乾（北海道病院 院長）

## ■継続テーマシンポジウム 3 「事務職に求められるマネジメント

### ～どのような仕事のやり方が期待されているか～」

座長 大鶴知之（理事）、増山理（星ヶ丘医療センター 院長）  
演者 伊藤幸淑（仙台病院 事務部長）、遠藤和美（東京高輪病院 事務部長）、  
木下敦士（高岡ふしき病院 事務長）、  
玉柴幸信（星ヶ丘医療センター 事務部長）、米田國治（九州病院 事務部長）

## ■シンポジウム 1 「医療安全を施設の第一歩とするために

### ～JCHO のこれからを考える」

座長 西田俊朗（大阪病院 院長）、山本修一（理事）  
演者 相馬孝博（千葉大学病院 医療安全管理部 特任教授）、  
矢野真（日本赤十字社医療事業推進本部 総括副本部長）、  
内藤浩（群馬中央病院 院長）

## ■シンポジウム 2 「新任院長の愚痴と繰り言（聞いて極楽 来て地獄）」

座長 内野直樹（理事長特任補佐、桜ヶ丘病院 院長）、  
島田信也（熊本総合病院 院長）  
演者 石川典俊（登別病院 院長）、八木澤隆（うつのみや病院 院長）、  
後藤百万（中京病院 院長）、西田俊朗（大阪病院 院長）、  
萩原淳（松浦中央病院 院長）、三原太（湯布院病院 院長）

## ■シンポジウム 3 「民間企業の最先端事例から学ぶ いい職場づくりのコミュニケーションの作法」

座長 徳岡晃一郎（理事）、村上栄一（仙台病院 院長）  
演者 荒金久美（株式会社コーサー 理事）、  
荻野博夫  
（スターバックスコーヒージャパン株式会社 人事・管理統括オフィサー）、  
三浦康久（日清食品株式会社 経営管理室次長）

## ■地区事務所企画・シンポジウム（関東地区事務所）

### 「コロナ禍における補助金の活用と今後の課題について」

座長 伊東久寿（関東地区事務所 統括部 医療課 医療専門職）、  
佐藤寛之（関東地区事務所 統括部 総務経理課 改善指導専門職）  
演者 清水隆裕（東京山手メディカルセンター 総務企画課長）、  
東哲哉（東京新宿メディカルセンター 経理課 課長補佐）、  
池田大士（東京蒲田医療センター 総務企画課 課長補佐）、  
笹本統（埼玉メディカルセンター 経理課長）、

## ■部会企画・教育講演 1（事務部会）

### 「医療におけるサイバーセキュリティとプライバシー保護」

座長 西川英敏（本部 総務部 IT 担当部 副部長）  
演者 相澤直行（株式会社 iStream 代表取締役）

## ■部会企画・教育講演 2（臨床検査部会）

### 「新型コロナウイルス感染症の検査」

座長 小山博史（東京新宿メディカルセンター 臨床検査技師長）  
演者 古賀稔（株式会社ミズホメディター 営業企画部 学術課）

## ■部会企画・教育講演 3（看護部会）

### 「アドバンス・ケア・プランニングと意思決定支援のあり方」

座長 吉浪典子（横浜保土ヶ谷中央病院 看護部長）  
演者 会田薫子  
（東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣講座 特任教授）

## ■部会企画・シンポジウム（放射線部会）

### 「水晶体等価線量限度改正施行対応について ～水晶体被ばく防護に向けた取り組み～」

座長 中原博子（熊本総合病院 診療放射線技師長）、  
岸俊夫（群馬中央病院 診療放射線技師長）  
演者 阿野匡昭（山梨病院 副診療放射線技師長）、  
澤本孝広（金沢病院 診療放射線技師長）、  
元岡秀昭（九州病院 診療放射線技師）、  
坂田朋（下関医療センター 主任診療放射線技師）

## ■一般演題（口演発表） 314 演題

## ■その他

ランチョンセミナー 9 社／企業展示 19 社／広告 26 社／  
就職ガイダンスコーナー 4 病院

## 編集後記

第6回 JCHO 地域医療総合医学会は、当初、2021年10月8日（金）・9日（土）を会期としておりましたが、昨夏の新型コロナウイルス感染症第5波の影響を受け、2022年3月4日（金）・5日（土）に会期を延期するとともに大幅な企画構成の見直しや規模の縮小を図り準備作業を進めてまいりました。しかしながら、新たな年を迎えても一向に収束の見通しが立たない状況が続いていたため、臨時の理事会が開かれ中止が決定しました。発表の準備をされておりました演者の皆様、参加を予定されておりました皆様方には大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

さて今号は、これまで開催準備において常に先頭に立ちご指導を戴きました木村健二郎会長（JCHO 東京高輪病院長）より、中止に至るまでの経緯や開催準備の思い出、更に、本来「会長講演」においてお話を戴く予定でありました講演内容や参加者へのメッセージについてご寄稿戴きましたので掲載いたしました。

木村健二郎先生には第6回 JCHO 地域医療総合医学会の会長として、また、本学会に設置しております院長部会の部会長として、多岐にわたりましてご指導ご鞭撻を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

一般社団法人地域医療機能推進学会  
事務局長 中村 仁

発行日 2022年3月9日

発行 一般社団法人地域医療機能推進学会

〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12

TEL:03-3445-5125 FAX:03-3445-5110

Email:info@jchs.or.jp / URL:https://www.jchs.or.jp/

